

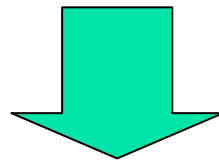


CM方式の導入効果検証に係る定量分析の 方向性について



1. 定量分析の必要性

- 地方公共団体を対象とした実態調査において、CM方式の導入の課題として、「CM導入の合意形成・意思決定の難しさ」を挙げる団体が1/3超。
- 第1回CM方式活用協議会においても、CM方式の導入効果を定量的に示すことで、地方公共団体の合意形成を促進し、CM方式の普及を促すべきとの指摘あり。



- 既にCM方式を導入した事業を対象として、定量分析を行い、その効果を示すことにより、CM方式の導入を促進する。



2. 定量分析の前提(案)

- CM方式の導入によるコスト効果については、以下の基準に該当するものを定量分析の対象とする。

①定量化の方法が確立している

- 定量化の対象は、事業費の削減効果及び便益の増大効果の両方のうち、定量化の方法が確立しているものとする。
- 定量化の方法が確立していないものは定性的な効果として取り扱う。

②CM方式の導入による直接的な効果が算出できる

- 設計の合理化や工期の短縮化等、CM方式の導入による直接的な効果と考えられるものを定量化の対象とする。
- CM方式の導入が入札結果(落札率等)に与える影響等、外部要因に大きく左右されるものは対象外とする。

- 上記の基準に該当せずに定量化の対象外とする項目についても、定性的に列挙することにより、追加的な効果を示す。

3. 調査対象とする先行事例と評価対象とする項目(案)

事業の概要	事業名	大分市上野ヶ丘中学校校舎改築工事	知見八鹿線道路整備事業	成田市滑川高岡地区簡易水道事業
	事業内容	老朽化を原因とする中学校校舎の改築工事	豊岡市と養父市を結ぶ道路建設工事(約1,500mのトンネル工事を含む)	深層地下水を水源とする簡易水道事業としての下総小野浄水場建設工事
	発注者	大分市	豊岡市	成田市
	事業分野	建築 (義務教育施設)	土木 (道路)	設備 (水道)
	総事業費	1,217百万円	3,306百万円	2,190百万円
	CMrへの委託費	11百万円	158百万円	18百万円
定量分析の対象項目	事業費の削減効果	<ul style="list-style-type: none"> ■設計の見直し、効率化による建設費の削減効果 	<ul style="list-style-type: none"> ■設計の見直しによる建設費の削減効果 	<ul style="list-style-type: none"> ■設計の見直しによる建設費及び維持管理費の削減効果
	便益の増大効果	<ul style="list-style-type: none"> ■無し 	<ul style="list-style-type: none"> ■早期の供用開始による便益の増大効果 	<ul style="list-style-type: none"> ■水質リスクの低減
定性評価項目	事業費の削減に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ■職員の人件費の削減効果 	<ul style="list-style-type: none"> ■職員の人件費の削減効果 ■設計変更の効率化による建設費の削減効果 	<ul style="list-style-type: none"> ■無し
	事業の質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ■学校機能の拡充による教育環境の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■自然保護対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■無し